

小学3年・国語、ハイブリッド学習 「へんとつくり」

アメリカ合衆国・ニュージャージー日本人学校

1 前提

学校環境

- 一人1台の端末 (iPad mini、Chromebook など) が使用できるように下記のような準備をした。
- インターネット会社から設置されたモデムから1台のルーターで全ての機器のIPアドレスの振り分け管理を行い、必要な場所にアクセスポイントを設置する。※図1
- Apple TVやGoogle Castを通して、モニターに提示することができる。

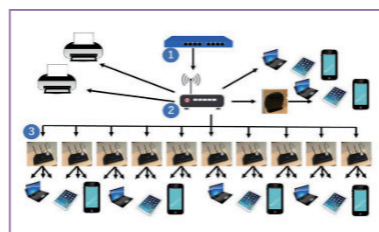


図1

課題と目標

<課題>

新型コロナウイルス感染症の対策として、対面授業をサテライト会場（本時は別の教室に）に配信する形で対応する。

サテライト会場を利用したハイブリッド授業は、今後も起こり得る非常時や様々なケースで学校へ来られない児童への学びの保障となるのではないか。

<目標>

漢字がへんやつくりなどから構成され、おおまかな意味があることを理解することができる。（知識、技能）

積極的に同じへんの漢字を集めたり、その漢字を含む短文づくりをしたりしている。（主体的に取り組む態度）

2 実践の内容

活用したICTツール

ICT 機器	1人1台のiPad、大型モニター（授業用） PC、ビデオカメラ（授業撮影、Zoom 配信用） PC、大型モニター（サテライト会場用）
ネットワーク	校内Wi-Fi（アクセスポイントを用いて回線を安定させる）
使用アプリ	ロイロノート・スクール（授業用）、Zoom（配信用）

具体的な活用方法

- 本時のめあてをつかむため、漢字パズルをおこなう。
これにより、へんは漢字の左にあることが確認できるので、その後の5つのへんがつく漢字を集める活動へつなげる。※図2



図2

- 自力で考えたり、漢字ドリルや教科書で探したり多様な方法を認め漢字集めをし、集めた漢字をワークシートへ書き込んだ。
児童全員が5つのへんを1つ以上集めることができた。※図3



図3

- へんの意味を理解するため、児童が各々で集めた漢字を自らiPadを使用し撮影してロイロノートの提出箱を利用し提出する。※図4
提出された情報（ロイロノートの提出箱の一覧）をTVモニターで共有する。※図5

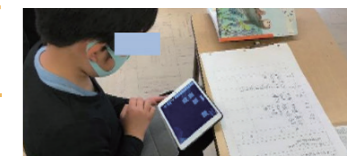


図4

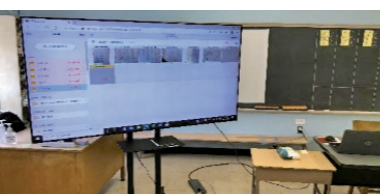


図5

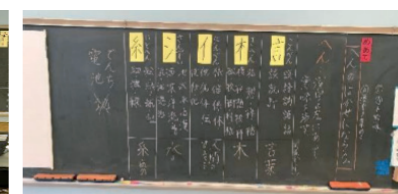


図6

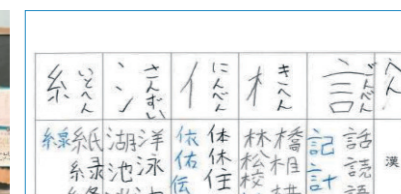


図7

共有した情報を授業者が黒板に整理する。※図6

それを児童はワークシートに青色で書いていった。※図7

- 本時の学習を「分かったこと、頑張ったこと、もっとしたいこと」を観点に振り返って行った。※図8

TVモニターと黒板、ワークシートで情報を共有することで、自分が調べた漢字とみんなが調べた漢字を見比べることができる。
それによって、それぞれのへんの意味を見いだす際に児童はスムーズにキーワードを出すことができた。

・はじめてへんのことばをつかいました。さんずいがいっぱいありました。
・自分でしらべたのでたのしかったです。
・さんずいがすきなので、これからもっと、さんずいをしらべてみたいです。

図8

<ハイブリッド授業の構築について>

本時の授業の様子をビデオカメラで撮影し※図9、別室（サテライト会場）にZoomにて放映した。※図10

【課題】で示したように、感染予防のため室内では収容人数の5割までとなっていた。

参観者は交替で別室から視聴し対応した。



図9

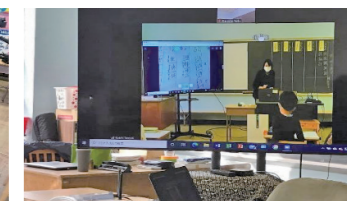


図10

3 成果

ICTツールを活用したことでできるようになったこと

ICT機器を活用することでそれぞれの考えを簡単に共有でき、全体で確認し合うことができる。この環境下において児童から普段よりもスムーズに的確なキーワードがあがるなど効果が得られた。

また、別室への配信が可能となりハイブリッド授業の構築へとつながった。

児童生徒、教師、保護者の反応

集めた漢字を発表している際、習っていない漢字が出てきて意味を問う児童に対して、発表している児童は、例を出しながら分かりやすく説明していた。このような「分かりやすさ」を様々な場面で大切にすることができ児童が安心して授業に参加している様子が見られた。